



奈良・人と自然の会



〈わたしたちは大和の自然を愛します〉

スローライフ

小田 久美子

人類が宇宙に移り住む時代が来たら、日本人が一番スムーズに宇宙の生活に馴れるでしょう。その理由は宇宙には木、草、花、鳥、動物、美術、文化的な町並みなどがないからです。宇宙船の中、あるいは月の上の植民基地はアルミと蛍光灯の世界です。他の国の人たちは時々自然の森や生まれ故郷の美しい町並みを思い出して、地球にかえりたくなる。けれども、日本人は日本を思い出してもアルミサッシ、蛍光灯、空に聳える鉄塔、コンクリートとガラスの町しか思い浮かばないので、月での生活とそう変わらないはずで

(アレックス・カー『美しき日本の残像』より)

最近読んだ本の中の引用文です。これだけでは前後の文脈や作者の背景は判りません。随分乱暴な『日本観』だと憤慨しながらも、外国人にはこう見える『今の日本・日本人』の一面を否定出来ず哀しく思いました。昔、『日本』や『日本人』は美しい国、礼儀正しい民族だと称えられました。新渡戸稲造の『武士道』を読むと、これこそが日本人のアイデンティティーだという誇りを持って世界に発信しています。貧しくても品性のある民族がそこにいました。先の大戦後、世界を驚かす奇跡的な復興を遂げ、オリンピック、万博と、世界に追いつき追い越す経済大国となり、衣食足りて礼節を持つ筈でした。その頃からエコノミックアニマルと揶揄されて 40 年。もつともつ豊かに、もつとお金持ちにと走り続けて欲望に限りはありません。効率良く便利な物は手に入りましたが、どれだけ時間に余裕が出来幸せになれたのでしょうか。本当の豊かさとはどんなものなのでしょうか。

「この漢字が読めますか」と面白可笑しくからかう無礼な国会議員、不毛な答弁。そしてそんなことを云われるトップを頂く不幸。昔、新田次郎著『八甲田山死の彷徨』を読んだ時【後戻り】を恐れる上官と【勇気ある撤退】を選んだ上官の元で、明暗を分けた部下の悲劇に涙したのを思い出します。今まさに私たちは逆巻く嵐の航海を、冰山にぶつかろうとしているタイタニック号に乗り合わせています。一部の心ある人たちが、「冰山が見える!!」と報告しても、舵を切り返すどころか速度を落とすことなく「まだ大丈夫、前に進める」という頼りない船長の船にです。トップが信頼出来ないのならば、自分たちでこの船をどうにかしなくてははいけません。孫がいる人もまだいない人も、次世代に美しい日本を、どれだけ負のつけを少なくして引き渡せるのか、真剣に取り組まなくてははいけません。もう少しスローな暮らしを考えてみる時期なのだと思います。

無理をしないで、出来ることを、すこし。。。ほんのすこし。。。昨日より慎ましい生活を。。

南米の先住民に伝わる「ハチドリのひとつづく」というお話があります。

森が燃えて、生き物たちが我先にと逃げ出しました。でもクリキンディという名のハチドリは嘴で一滴づつ水を運んで炎の上に落としていました。その光景を見て動物たちは「そんなことをして今更何になるんだ」と嘲笑いましたが、クリキンディはこう応えました。

「私は、私に出来ることをしているだけ」

新春講演会
テーマ 里山の景観形成と
デザインの実践



日時 1月 31日 (土) AM 10:00~12:00
場所 奈良市 中央公民館 4F 第4講座室
講師 大阪府立大学院 生命科学研究科
上甬木 昭春 教授
来場者 56名

当日は、夜来の雨も上がり、恒例となった新春講演会に上甬木 教授をお迎えして、里山保全について、多面的な視点で講義して戴きました。

会場は満席の盛況となり、熱気に溢れた雰囲気に関係者一同ほつとした表情を隠せず、来場者に心から感謝申し上げたいと思います。

講義は保全活動の要諦として「地域社会の理解」「行政との疎通」「孤立林の整備」「里山の景観構造」「保全への啓発活動」「癒しの森の形成」等、特に奈良県特有の文化遺産との融合についてご託宣をいただきました。

マネジメントの面においても「可視領域の保全」「将来像の展望」など、地域環境マネジメントについてもご高説を賜り、具体性のある資料提供を受け、里山保全のバイブルとして、今後の活動に生かしたいものと考えております。有り難う御座いました。

終了後、「今日は年長の方が多く、自然に対する造詣の深い方ばかりで、堅くなりました」との述懐があり、熱のこもった講演に再会を約し、深く感謝の意を伝えた次第です。

阿部会長、吉川幹事始め、お世話いただいたスタッフに感謝申し上げます。

川井 記

1月例会 奈良公園の巨樹案内に寄せて

今回、図らずも奈良公園の巨樹を、「人と自然の会」、の皆様で紹介できる機会をいただき、母体の、「グリーンあすなら」としても、「巨樹案内ボランティア」の充実期でもあり、有難くお請けした次第となった。

一口に、「巨樹案内」と言っても広い公園内に、万余とある樹木の中から 単に巨樹巨木を探し出すのみでも容易では無い。幸いに、母体の組織力を生かして「奈良奥山原始林を含む調査資料」が、既に5年前に出刷されていたのが、「奈良市市民企画事業」としての「奈良公園の巨樹」案内写真集の編集に当たり、基礎資料として活用された。公園全山を網羅した詳細資料なのだが、園内の保安、保全、の故の立ち入り禁止区域内の資料は出典を避けてあるので御了解願いたい。

今回の案内に提供された写真集の発刊に当たっては、前後2回の調査、及び写真掲載の為の入山、更に「巨樹に親しむ会」を立ち上げ、市当局、印刷社、等との折衝に「コアー」として奔走されたのが、理事であり、且つ「人と自然の会」のメンバーであり、今回の現地案内を一手に引率して戴いた 甲斐野幸一さんである。

「数百年を今に生き、命に触れられる巨樹を、より多くの人に、観て触れてもらいたい」との、彼の想いのある案内だったと確信しています。 休題

ところで奈良市は、幹回り2m以上の巨樹を、条例で保護していることは御存知だろうか？。個人家庭と雖も濫りな伐採はならぬのである。旧家の庭先、山林、寺社叢林等が対象となるが、こうした場所には然るべく通達が発翰されている。従って国宝級の建造物の脇で、台風禍を招きそうな巨樹に対しては、枝を落として倒木を防ぎ、古来の文化を守ろうとしている。また樹木自体に避雷針を設けて、建造物共に保護されているのも散見される。殊に春日大社の地域内山林には全面的に、「許可なく立入禁止」なのである。この条例施行を、市会に議案提出、可決に持ち込んだのが、松村和夫さんである。人と自然の会のメンバーであり、グリーンあすならの事務局長を務めるが、奈良市会の中で、自然環境保護を訴える筆頭議員でもある。

話は戻って、今回の案内に使った写真集の通りに公園内を案内するには、如何に健脚と言えども一日の工程では到底無理なのは、御理解戴けたと思う。環境庁が定めた巨木のみならず巨樹共の案内となれば、数日の時間が必要である。まして公園内には、小木ながら珍樹も多いのである。

尚、今回の案内には、樹木草本共に熟知の、一騎当千の会員の方々が参加されて居たことは、百も承知の上で、敢えて目線を初参加の方に合わせ、インタープリターとしての観かたも併せて案内したことは、御諒解を戴きたい。

最後に、案内は興福寺周辺の一部と、春日大社の周辺の一部の案内で、時間切れとなり、お別れをしたが、振りかえれば、奈良公園の一端を端折ったに過ぎない。私どもとしては四季折々の自然の変化が眩いばかりの奈良公園を、皆様と共に今回のような散策の機会の訪れを願いつつ擱筆します。

今回の資料を手元に、「あおがきの山懐' 神鹿戯る奈良公園」に、ロマンの延長を求めて御清遊の程を!!。

記	施行月日	平成 21年 1月 31日	新年講演会にて	講演終了後の午後の部
	時 間	自 13:00	～ 至 16:00	解散
	担 当	林 令子	甲斐野幸一	樋口善雄
	参加員数	47 名		文責 樋口 善雄

〈癒しの散歩道〉

紅梅にもどり雪白く

谷川萬太郎

降り注ぐ春のもどり雪に化粧する梅の花が白い冷たさに伝き濡れてなお美しく

暖かく柔らかな日和の訪れを静かに待ちわびてじっと支えてみせる細い枝

近くて遠きにある春のうららかさよあわりの心をそっと私に分け与えておくれ

いつの間にか雪が雲の彼方に消え春雨に変わる隙間から梅の匂いが零れ落ちて

ほのかに甘酸っぱい香りが鼻をくすぐり拡がる静寂のひとときに酔いしれてみる

肌寒く震える道端の草花たちも漂える小さな春を抱きしめたいと空を仰ぐのだ

ならやまプロジェクト・レポート 21年2月

1月24日(土) 晴 参加者 40名(内 実習生3名、菜の花プロジェクト13名)

時おり風花の舞う生憎の天気だが、全員でc地区の笹藪の刈笹を集めて搬出の段取りをする。刈跡から畑、田圃、用水池、野井戸、水路跡などの遺構が現れてくる。これをどうに活用していくか、皆で楽しみながら議論をしていく。(2月14日、溜池の水張りテスト開始した)菜の花グループは、3回目の除草等の手入れをする。生育は順調のようだから、4月に行なわれる「菜の花祭り」には里山をバックに金色の絨毯がお目見えすることだろう。

実習生はA地区の植生調査と竹藪整備の実習に汗を流す。

昼食時には、心づくしの豚汁に舌鼓を打ちながら、

会員と懇談する。今後、活動に参加される人が出ることを期待したい。 大根の最終の収穫日。各人でしっかり持ち帰

って、なお残ったもの約100本を漬物用にハサかけするサ掛けする。

ならやまプロジェクトの来年度計画について、

全員でフリートーキングを実施。出された意見は、計画に反映される。

午後3時 解散



ならやまのオニグルミ
撮影守口京子

2月6日(金) 晴 ならやま山の日 参加者18名

今日は全員がD、E地区の里山に入り、観察路と学びの森の整備をおこなう。観察路にある枯倒木の除去は危険作業になるので、山作業のベテラン・グループが担当する。今日までの作業で、マークしていた危険木の約9割方の処理が終る。

別のグループはD地区の空閑地「学びの森」を整備する。3月7日の公開イベントに備えて下草や笹を刈り払って林間学習のできる場所に仕上げる作業。さらに「椎茸の菌植え」体験学習の準備として、間伐によって出たコナラ材をタマ切りしてホダ木100本を準備する。

A地区に侵入していた竹藪は3月完了を目標に除伐が進められている。これと平行して山裾の根笹、カヤ類の刈取りに取り掛かる。手前の湿田跡の整備が進めば、一帯の景観は素晴らしいものに生まれ変わるはずだ。 今日もまた、それぞれに手応えと充実感に浸れた一日でした。

日々是好日、 日々感謝! 午後2時30分 解散

2月9日(月) (晴) ならやま「鳥の日」 参加者 12名

*詳細は別記

2月12日(木) 晴 参加者 30名(内 実習生2名、ビジター1名)

3月下旬並みの暖かい日となる。今日は全員作業でa地区の田圃跡地の整備に取り掛かる。背高く生い茂っていた草を刈り払い、撤去した結果、自転車道路から北側の山にかけてスッキリとした展望となってきた。湿地はトレンチを掘って水抜きをして、県の手で耕起されるのを待つ。一連の作業で、A-a地区の景観形成は一段落することになる。午後の会議で、里山の観察路にある広場の名前を、それぞれ「学びの森」、「鳥観の丘」、「たけのこ平」、「遊びの森」とそれぞれつけることが決まり、表示板の製作は鈴木末一さんに引き受けていただきました。 全員が感謝!!

2月13日(金) 晴 臨時の山作業 参加者 10名

東回りの観察路の一部に急坂箇所があり、児童の歩行にはやや危険が伴うと判断されたので、別の安全なルートを設定した。本日、必要な整備作業を行ない、完了した。

“最後に耳よりなお知らせです”

ベースキャンプ地に簡易トイレ2基の設置が許可される見込みで、2月中に実施する予定です。

(古川 祐司 記)

* ならやま里山林花だより *

林 令子

2月12日(木)スイセンは今見頃、ウメの花も咲き出し 里山にいい香りを運んでくれています。ジンチョウゲも間もなく咲きそうです。野にはオオイヌノフグリ、コハコベ、タネツケバナ、オランダミナグサ、ナズナ等が咲いていました。



ウエルカム・ボーイの愛称募集中

* なら山の鳥たち・二月 *

小田 久美子

2/9(月) 風のない穏やかな日差しの中、川瀬氏他 12名での観察です。野守のジョー君、モズ君も静かな見廻りで、先月賑やかだった「柿レストラン」は小鳥たちが糞を沢山残して静かでした。メジロがヒタキ類のフライングキャッチの様な珍しいしぐさをしているのを何回か見ました、余裕で遊んでいるのでしょうか。「見張り台」ではコ克蘭の葉の先が無くなっていました。このベジタリアンさんは誰でしょう? 菊川さんが2/1、オオタからしい2羽を見られています。畑仕事の合間に空を見上げてみて下さい。

* ならやまの越冬昆虫 *

菊川 年明

間もなく啓蟄を迎えます。冬籠もりをしていた虫たちが穴の中から這い出してくる時期と言われていますが、昆虫たちが本格的に姿を現すのはまだもう少し先になります。

この冬、ならやまで昆虫が潜んでいそうな場所を何度か見て回りました。昆虫が越冬する姿は卵・幼虫・蛹・成虫などさまざまですが、成虫で越冬しているものを調べました。成虫の越冬場所は朽ち木の中、石の下、地中、堆積物の下、建物の物陰などですが、主として朽ち木を調べました。ならやまの朽ち木は大部分がアカマツのものですが、コナラのものも若干ありました。見つけた昆虫は30種、67頭でした(アリ・シロアリは1群を1とカウント)。種類の詳細は次のとおりです。

朽ち木にいたもの……コクワガタ・オオオサムシ・クロナガオサムシ・マイマイカブリ・スジアオゴミムシ・フタモンウバタマコメツキ・ウバタマコメツキ・アカハラクロコメツキ・ユミアシオオゴミムシダマシ・オオエグリゴミムシダマシ・オオクチキムシ・クチキムシ・ヤマトデオキノコムシ・未同定甲虫類3種・クロサシガメ・オオツノカメムシ・オオスズメバチ・ミカドオオアリ・ムネアカオオアリ・ハエの一種・オオゴキブリ・ハサミムシの一種・ヤマトシロアリ(計25種)

杉の樹皮下にいたもの……オオトビサシガメ林内にいたもの……シャクガの一種 草むらにいたもの……ヨモギハムシ・マルカメムシ 石の下にいたもの……ゴミムシの一種

しかし、越冬している昆虫(成虫)はもっといるはずです。

オオスズメバチは女王バチだけが生き残って越冬し、春になると単独で巣作りを始め、産卵し、生まれてきた働きバチの助けを借りて順次家族集団を大きくしていきます。



(写真は朽ち木の中で越冬していたオオスズメバチ)

棚田ルネサンス

川井 秀夫

生駒山暗峠から生駒谷へ続く国道308号線。古くは奈良街道と呼ばれた地点に、西畑町の棚田風景が広がりを見せる。

03'年。O氏の仲介により「シニア大阪里山クラブ」と、当会の合同による景観再生・援農作業が始まる。大阪方より堤 正克氏（現 理事）菅沼 洋氏（元 理事）、林 宏氏、川口 達夫氏、西屋 哲雄氏ら。当会から当時の幹事会メンバーが総出動して、茫々たる荒れ地の整備に取り組む。背丈を越える篠竹、葛の宿根、繁茂する金律、竹叢の間伐、ふるさとの小川を連想させる神田川の雑草駆除と、一年間は明けても暮れてもこの作業の繰り返し。篠竹に負けて利き腕が腱鞘炎を起こし、間伐の竹に頭部を直撃されたり、深い溝に脚を突っ込み腿を痛めたり、未だに後遺症が残るが、これも道楽の勲章と誇りにすら思っている。

苦労話が多いが、地権者との融和もその一つ。当初は得体の知れない団体と胡散臭い視線を感じたものだが、収穫祭・忘年会・とんど祭・懇談会など、地元の旅行にも参加して段々に信頼関係が固まり、暖かい心情と素朴な人柄に触れ、友好関係が高まりを見せたものである。地元の長老Aさん、暗峠の茶店のYさん、芸術家のKさんと懐かしさが甦るが特にAさんとは申年（私より一回りお若い）と言う事もあってウマが合い、よく大酒を交わしたものである。

04'年には、行政・地元との緊密化を計る必要に迫られ、『いこま棚田クラブ』として分離独立、当会から出口 育宏氏（元 幹事）を推挙し、今日を迎えている。

彼の打ち出した「エコツーリズム」の理念は急速に浸透し、再生の地に畑作・稲作・休耕田にはコスモス、蕎麦の花。花畑ゾーンには四季の花、山地・竹林の整備、子供たちとの交流を通じ、広葉樹の植林、農事体験、祭祀行事への呼びかけなど、八面六臂の活躍に頭が下がる。

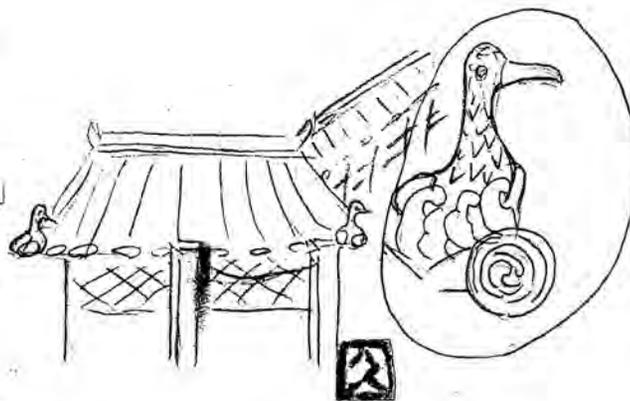
西屋 哲雄氏も忘れられない。少年の様な風貌から誠実な純な人の印象が強い。出口氏の右腕として、益々のご活躍に声援を送りたいと思っている。

世は移り、オバマ政権の唱える「グリーン ニューディール」が起爆剤となって、日本版「グリーン ニューディール」が聞こえて来る。農林業の革命的国策に期待が集まるが、生産性の低い「棚田」に脚光を浴びる日が来るのだろうか。

私は、日本の文化遺産としての保護政策に期待したいと思っている。自然は生き物であり時時転変する。我々のたゆまぬ活動がこの素晴らしい景観を常態化することが、小さな使命であり、終わりなき「棚田ルネサンス」と信じている一人です。

昨年、棚田の現場から身を引きましたが、後事を新世代に継承していただき、更なる頑張りを刮目しております。 拙句・ 過ぎし日は棚田の春と想ひたり

3月の奈良と云えば東大寺二月堂で行われる修二会、別名「お水取り」です。この行事が終わると奈良には春が来ると云われています。「お水取り」=「お松明」だと思いきやと帰られていませんか。たいまつは本来、練行衆が二月堂へ上がる時に足元を照らすためのものです。中に入って、これから厳しい修行をされるのです。私たちも「局」の中に入れて頂けて、



練行衆と共に観音さまにお祈りすることが出来ます。寒〜いのですが、この凛とした空気に触れると、自分も修行の一端をしたような気持ちになれます。

ところで、良弁杉の下の「閻伽井屋」の屋根の上には鶺鴒が二羽乗っています。修二会を始めた実忠和尚が全国の神様を勧請している時、釣りに夢中で遠敷明神が遅刻しました。お詫びに若狭から観音さまへ送ると約束し、二羽の白・黒の鶺鴒と共に香水が湧き出したそうです。別名「若狭井」ともいいます。神の使いだった鶺鴒も、今や、各地のアユや養殖魚を獲り放題、埒の木をフンだらけにして枯らしてしまうなど、増えすぎて、カラスと共に嫌われ者に落ちぶれ(?)てしまいましたが、30~40年程前には絶滅が心配される存在でした。彼らも一生懸命生きているのですが。。。折り合いをつけるのは難しいご時勢です。

しーちいきじょうほう

- ★「オジロビタキ」日本では少ない冬鳥または旅鳥。榎原神宮で越冬していました。
- ・ 2/14 ヒレンジャク 4羽 知事公舎 (小田)
- ★1/24 天理の崇神天皇陵のお堀の水が半減していて、毎年越冬に来る沢山のオシドリやマガモが一羽も居なかった。宮内庁に聞いたところ、堀の水を抜き、田植えに間に合うように少しずつ満たしているとの事。2/14 再度行ってみると、水量は増えていたが、やはりオシドリ達は居なかった。毎年越冬にくる鳥のことはどう考えているのだろうか。
- ・ 1/24, 2/14 柳本の県道付近にニューナイスズメが50羽ほど群れていた。 (西谷)
- ★ (斑鳩より) 2/7・2/18 ルリビタキ・2/18 チョウゲンボウ・イソヒヨドリ♀ (勝田)

自然俳句欄

はらわた
老木の腸をみせ寒明ける 秀夫

11月例会。巨木観察。樹皮一枚の生命力。
やがてウロに春風が吹く。今年も、よくぞ冬を乗り切った。
だいこ
大根引く重さに思ふ里あかり 秀夫

里山の大根は小なるものの旨い。この重さは丹精の重さ。
内なる精神性を詠む。



* 原則：前日午後7時前のNHK天気予報で降水確率（午前）60%以上の場合は中止*

『ならやま里山林プロジェクト3・4月の予定』

このプロジェクトは三井物産環境基金の助成を受けています

場所：奈良市奈良坂町・佐紀町の県有林（JR平城山駅下車徒歩10分）
—「ならやま会館」前の道路（ならやま大通り）の南側に広がる林地—

日時：3月7日（土） 公開イベント「里山へ行こう」（椎茸菌打ち 他）
3月9日（月） ならやま野鳥観察の日（小雨実施）
3月14日（土） 公開イベント「里山へ行こう」予備日
3月20日（金） 一般活動日
3月31日（火） ならやま山の日（里山整備）
4月11日（土） 菜の花祭りと野草料理
4月13日（月） ならやま野鳥観察の日（小雨実施）
4月17日（金） 一般活動日
4月22日（水） ならやま山の日（里山整備）
4月30日（木） 雨天予備日

集合 現地ベースキャンプ地 9時 終了予定 3時

交通：①近鉄奈良駅 バス13乗場8：23発 高の原行

②近鉄高の原駅 バス1番乗場8：30発 JR奈良行

①②とも佐保台西口、または平城大橋下車 徒歩約7分

携行品：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地にて用意）、防寒対策

*環境保護のため、コップ・箸・椀は各自でご用意下さい。

活動内容：・里山林整備、環境整備、植生調査、放置田跡の笹刈、花木植栽等の景観形成

畑作業は、除草、有機栽培のための堆肥作り、土作り

*ウエルカム・ボーイの愛称募集：イベントの際、参加者を歓迎するウエルカム・ボーイの愛称を、担当幹事まで電話又はFaxでお寄せ下さい。

*自由活動日について：1月～3月の間、火曜日、金曜日を「ならやま自由活動日」とします。

活動される方は、担当幹事までご連絡下さい。

（問合せ先：担当幹事 古川 小嶺



ならやまの野鳥観察

皆さんのご参加をお待ちしています！

～野鳥の会奈良支部・川瀬支部長のご指導による～

☆日程：3月9日（月） <毎月第2月曜日>

★集合時間・場所：8時50分 ならやま駐車場 *9時出発 11時ごろ解散

☆観察場所：里山林散策路内の定点及び定線観察

★持ち物：双眼鏡・飲み物・歩きやすい服装・マイコップ（弁当・雨具は適宜）

☆小雨決行。判断の難しい時は担当者に問い合わせて下さい。中止の時は次週に順延。

★担当者：小田 菊川

【奈良忍辱山森林整備作業】 ーご参加お待ちしております! ー

場所： 奈良市忍辱町 国有林 駐車場より徒歩 10 分東海自然歩道沿いの二次林。
集合場所： 国道 369 号線一駐車場（奈良交通バス停・忍辱山円成寺口・南側へ戻る）
日時： 3月17日（火）、予備日 24 日（集合時間 10：15 終了予定 Pm3：00 ころ）
交通： 奈良交通バス 近鉄奈良駅前バス乗り場④番 9：40 柳生・月ヶ瀬温泉行き
（持ち物） 作業のできる服装、昼食、飲み物、手袋、コップ。用具は、準備しています。
（連絡先） 弓場厚次、明石嘉一郎、板橋宏昌

活動報告 2月17日（火）雪が舞う 寒し

参加者 明石嘉一郎、板橋宏昌、竹本雅昭、守口京子、弓場厚次、安川和男、森 英雄、阿部和生 8 名
朝のミーティングで安全な作業を心がけることを誓い 3 班に分かれ作業を行った。込み合った低木の常緑樹や生育を妨げる不良木を除去し、林床に光が届くよう実施した。ルリビタキが“おれの縄張り”と主張し、近寄ります。しばし手を止め「素敵なさえずりをきかせて！」と待っていても、プイと飛び去ります。木漏れ日の恵みです。作業はほぼ終了に近いところまで進み、あと半日くらいでこの第三区域の整備を終えられそうです。

次回 3月17日 この第三地区の終了を兼ねて、「ゴミ拾い」を実施しますので、多くの皆様のご参加をお待ちしています。整備の進み見通しのよいところで森林浴、森林セラピーを兼ねてぜひご参加ください。 * ご希望の方には、作業もしていただけます。

【忍辱山国有林の作業は、3月をもって休止とします。】

3月例会「壺坂・高取城址と雛の里」を訪ねて

北に奈良盆地を見下ろす天剣の地・標高 583 メートルの高取山頂に築かれた日本一の山城と石仏群をめぐり、山麓の城下町、土佐街道「雛の里」の街並みをのんびり訪ねます。

日時：21年3月25日（水）9時30分集合

大和西大寺 8：23・・・橿原神宮駅乗り換え 9：04・・・壺坂山駅 9：12

大阪阿倍野橋 8：20・・・壺坂山駅 9：12

集合：近鉄吉野線壺坂山駅

コース予定：壺坂山駅バス乗車 9：45・・・壺坂寺・・・五百羅漢石仏群・・・高取城跡（昼食）・・・猿石・・・植村邸長屋門・・・土佐街道（雛飾りの展示多数）・・・壺坂寺駅

担当：豊島 小嶺

<4月の予定>

4月例会 **花の郷 平群を訪ねる**



新年度最初の例会は昨年オプションで企画し、その時の参加者の熱い要望に応じて再び隠れた桃源郷の平群を訪ねます。新会員の方もどうぞ、お越し下さい。

日時：平成21年4月3日（金）午前10時 *予備日 4月7日（火）

集合場所：近鉄生駒線平群駅前

予定コース：平群駅 10：10→つぼり山古墳→白山神社→コブシの谷→鉄砲池（昼食）→富貴畑→元山土駅 2：30 分頃

*今回は花の観賞が主ですので、（観察もどうぞ）ゆっくりと歩きます。

担当幹事： 小嶺 勝田

「いこま棚田クラブ」の活動日 ご案内

- 21/3月活動日・・・1日(日)、9日(月)、15日(日)、23(月)、29(日)。
集合場所と時間：近鉄生駒駅下車、南口側ケーブル駅西隣セブンイレブン前 AM9時集合
現地まで車で移動15分。弁当・飲み物持参下さい。
* 3月の作業は、草刈、石垣だし、花畑、畑の手入れ、竹炭焼き、里山林整備です。活動内容は天候によって変わります。

平成21年2月度幹事会議事録

日時：2月10日(火) 場所：奈良市中部公民館 司会：林、記録：岩田

【報告事項】

- (1) 会員数 111名
- (2) 新春講演会 1/31(土) 10:00~12:30、中部公民館、参加者・56名。
 - ・「里山の景観形成とデザインの実践」大阪府立大学教授・上甫木 昭春先生
 - ・「奈良公園の巨樹観察会」13:00~16:00、甲斐野氏、樋口氏、林氏参加者47名。大変好評だった。
- (3) 奈良・忍辱山森林整備作業 1/16(金)、参加者8名。計画通りに進捗している。
- (4) ならやま里山林プロジェクト
 - ①1月 定例4回、臨時1回、78名参加。・鈴木さんがウエルカムボーイを作成していただいた。
 - ・1/24 定例活動、菜の花作業に40名、大根のハザ架け作業。その後漬物にした。
 - ②簡易トイレの設置について： 県とも協議し2台設置の見通しとなった。3/7には設置の予定。
 - ③山の整備(赤松の立枯れ・倒木整理) 85~90%整備がすすんでいる。
- (5) 「生駒市環境フェスティバル」1/18、パネル展示
- (6) シニア自然大学、進路ガイダンスに参加。(7) 生駒市イモ山公園・里山林研修会講師に6名派遣。

【確認事項】

- (1) 平成21年度 企画会議の確認
 - 例年通り月1回県内を中心に例会を実施する。但し、8月は休み。降雨等で行事中止の時は原則1週間後を予備日とする。会員研修も行事計画の中で検討する。
- (2) 定例行事の確認(2~6月)
 - 例会： 2/25「琵琶湖探鳥会」、3/25「壺坂・高取城址」、4/3「桃源郷・平群」(予備4/7)
5/26「ハツ房杉・青蓮寺」(予備5/28)、6/8~6/12「能登・千枚田(1泊)」、(計画)
 - 総会： 5/24(日)午前10時より総会、午後・ならまち探訪
 - ならやま里山林P
 - [4月] 4/11(土)「菜の花まつり」、4/13(月)(鳥)、4/17(土)、4/22(水)(山)、4/30(木)
 - [5月] 5/23(土)「ジャガイモ掘り」、5/8(金)、5/14(木)(山)、5/11日(月)(鳥)、5/31(日)
 - [6月] 6/4(木)、6/8(月)(鳥)、6/16(火)、6/18(木)(山)、6/30(火)

【討議事項】

- (1) 奈良・忍辱山森林整備作業 3月末で活動を終了する。3/17(火)：ゴミ拾い活動を計画する。
- (2) 新入会歓迎会行事は総会後に計画する。(3) ならコープ：アースデー ・4/19 参加する。
- (4) 「みんなで守るロード事業」 参加団体として申請する。

編集担当：勝田 均

TEL&FAX：

【当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません】

奈良・人と自然の会事務所

会長 阿部 和生